

科目名	情報基礎 2 Introduction to Information Technology 2	1年 後期	専門必修	2単位
担当者名	渡辺 博芳 佐々木 茂			
授業目標	情報基礎 1 で身に付けた情報通信技術(ICT)の力をさらに高め、コンピュータとネットワークの仕組みを深いレベルで理解することを目標とする。授業概要に示す項目を一通りレビューすることが最低限の内容である。それぞれについて深い理解や高度な活用力を習得することが目標とする到達点である。			
授業概要	情報活用の実践力(高速タッチタイピング、表計算ソフト、適切なソフトウェアの活用、プレゼンテーション)、情報の科学的理解(CPU、アセンブラ言語、機械語、アセンブラの処理、情報通信ネットワーク、通信プロトコルの階層化、パケット通信、TCP/IP、インターネット、HTML のフォーム、サーバサイドの処理、データベース、SQL、テーブル、レコード、フィールド、データの検索)、情報社会に参画する態度(メディアリテラシー、情報倫理)、協同学習			
授業方法	講義、個別学習、グループによる協同学習など多様な学習活動を行う。			
授業内容のレベルと関連する科目	大学の一般情報教育に位置付けられる科目である。情報基礎 1 を履修していることを前提にする。			

授業担当者	渡辺 博芳 佐々木 茂			
授業内容	この授業を修了すると、以下のようなことができるようになっていないはずである。また、そうなるように学習することを望む。 <ul style="list-style-type: none"> <li>英字および日本語の入力において、キーボードを見ずに速くタイピングができる。</li> <li>テレビやインターネットなどのメディアからの情報を適切に解釈することができる。</li> <li>ユーザが入力したデータをサーバに送信するためのウェブページを書くことができる。</li> <li>データベースについて理解し、データベースを操作するための言語(SQL)を使ってデータの検索や簡単な操作を行うことができる。</li> <li>CPU の構成と動作を理解し、アセンブラ言語の簡単なプログラムがどのように実行されるか説明できる。</li> <li>アセンブルとは何か説明ができ、アセンブラ言語の簡単なプログラムのアセンブルができる。</li> <li>通信の階層モデルを理解し、インターネットにおける通信において階層性を説明できる。</li> <li>表計算ソフトで、複数のワークシートに対して適切な番地指定をして、データ処理が行える。</li> <li>与えられた問題に応じて適切なアプリケーションソフトを選択して活用することで、問題解決が行える。</li> <li>聴く人のことを考えて、わかりやすいプレゼンテーションができる。</li> <li>友人との協同学習において、友人を思いやり、協力して学習を進めることができる。</li> </ul>			
授業構成	第 1 回 イントロダクション、自己学習力、メディアリテラシー / 第 2 回 CPU のしくみ、アセンブル、アセンブラプログラムの動作 / 第 3 回 CPU の動作、分岐と繰り返しを含むプログラム / 第 4 回 アセンブルとトレース演習 / 第 5 回 中間試験 / 第 6 回 フォームを含む HTML 文書 / 第 7 回 データベースと SQL / 第 8 回 プレゼンテーション演習(調査と発表準備) / 第 9 回 プレゼンテーション演習(発表会 1 回目) / 第 10 回 プレゼンテーション演習(再調査と改良) / 第 11 回 プレゼンテーション演習(発表会 2 回目) / 第 12 回 表計算ソフト / 第 13 回 情報通信のモデルとインターネット / / 第 14 回 期末試験 (タイピング試験を含む。)			
授業方法	毎回の授業で学習目標と学習ガイドを明示する。授業では講義、WebCT のコンテンツに基づいた個別学習、グループで行う協同学習など多様な学習アクティビティを行う。			
達成度とその評価	以下の条件を満たした学生を合格とする。 (1)全ての授業に出席すること(やむをえない理由で欠席する場合は「欠席理由書」を提出し、特別テストまたは特別レポートによって、出席扱いとする場合がある) (2)必須課題レポートを全て提出すること (3)中間試験と期末試験の得点の合計が総点の 60%に達していること (4)キーボードを見ずに、ある程度速くタイピングができること (5)プレゼンテーション発表を 2 回実施すること 合格基準を満たしたら、基本点 60 点を与える。基本点に、課題レポートの得点、試験の得点の 60%を超えた分、学習態度による加点、グループ学習におけるボーナス点などを加点する。			
使用テキスト	CL ガイドブック編集会 「CL ガイドブック」 学術図書出版社			
使用教材	教材は WebCT に掲載する。また、CL 教室にインストールされているソフトウェアを使用する。			
その他	個々の学生は、自分自身が学習目標を達成することだけでなく、クラスの仲間全員が学習目標を達成することに責任を持つ。また、友人を作るきっかけとするためにも、グループやペアによる協同学習を多用する。したがって、授業を勝手に欠席したり、遅刻すると仲間に迷惑をかけてしまうので、無遅刻・無欠席を心がけること。			